

精神に障がいがある人が働き、生活する施設を訪ねる

社会福祉法人まるこ福祉会
上田市長瀬2885-3
TEL0268-71-6263 FAX0268-71-6261



グループホームは住宅街にあります



加工品などの調理室には機器も揃っています



企業から菓子箱を折る作業も手馴れています



ボランティア学生さん(左)と一緒に楽しく作業する



作業場にはたくさんの利用者がスタッフと働く



まるこ福祉会法人本部と、障害福祉サービス事業所「きらり」の外観



女性の個室は広く、収納もしっかり



食堂で、毎日みんなで食事をします



無農薬で、殺虫剤も除草剤も時かずに育てる米



上田市丸子物産館「花風里」は信州国際音楽村の風光明媚な場所に



レストランもあり、パスタが500円で

グループホームは民家を改装。スタッフが住み込みで対応

定員10人のグループホーム「ホームとんぼ」を訪ねました。民家を改装した建物で男性棟、その隣の女性棟は新築です。すべて個室で、スタッフが住み込みでみんなの食事の用意や生活のお手伝いをしています。現在8人が居住。内、精神に障がいのある人は3人。担当職員は「基本は自由です。ですが夜中に独り言を言う人や、人の話を過剰に気にする人などがいて、慣れるまでは大変でした。現在も病院へ通いながら共同生活を楽しく過ごしています」と話します。「近隣には設立時に説明会を設けるなどして理解と協力をいただいている」と理事長。入所して3年目の統合失調症の20代の女性に話を聞くと「前に家族といったときは辛かった。今は一人暮らしができて自由で快適。両親もずっといい関係になっている」と話してくれました。

「障がいのある方の自立が大切。しかし成人してもなかなか手放せない家族が多い。そのため本人が辛い状況にいる場合もありますので、障がいがあっても本人の可能性を信じて自立できるよう協力してほしい」と理事長は話します。スタッフは福祉専門員が対応していますので、各々の障がいの特徴をとらえ適切な支援ができ、行政や地域、関係団体との連携態

民生児童委員にはぜひ見学に来てほしい

最後に民生児童委員との連携について「特に精神に障がいのある方は家にこもってしまいがち。いじめ、虐待等々大変な事故につながる場合もあります。できるだけ家族が心を開き、民生児童委員さんや行政機関と話のできる環境づくりが大切、そこから自立への道も見えてきます。障がいのある人に接していると、家庭と民生児童委員さんの役割は本当に大きいと思います。個人情報保護により、ひきこもりで悩んでいる人、障がいのある人、虐待や暴力等困っている人の把握が非常に難しい社会となっておりますので、現場第一主義で、地域の悩みを発見・取りあげ行政機関等につなげていただく事が、大切なお仕事と感じております。その場に行かなければわからないこと、来ていただければお話できないことなどもたくさんあり、きつと参考になるはず」と話してくれました。

勢がとることが出来ます。「二人の人の生涯を支えられる法人に成長したい」と夢はつきません。

障がいのある人の親がいなくても、安心して生活できる支援態勢づくりを目指しています。「障がい者の病い・老い・闘病生活を支えられる社会になれば」と理事長は考えています。



オリジナル商品や地域の品物、お菓子、パンなども売っています



「花風里」の厨房では楽しそうに、スタッフが働いています



理事長と利用者がハイチーズ



物産館の奥ではオリジナルのお菓子づくりが



美味しそうにオリジナルパンが焼けています



パン工房で働くスタッフのみなさん



施設内には木工製品や手芸品など製品展示コーナーが



理事長の柳澤正敏さん。オリジナルの堆肥と。

良と考えた。前代未聞の試みに、機の引き出しには辞表を用意して知事の認可を待った」とその当時の苦勞を語ってくれました。

上田市長瀬の旧大手スーパー跡の広大な敷地と建物に本部をおく「社会福祉法人まるこ福祉会」は障害福祉サービス事業所（就労継続支援B型・生活介護）として「とんぼハウス」と「きらり」上田市丸子物産館「花風里」・パン工房とんぼ、グループホーム「ホームとんぼ」などを32名の職員とボランティア協力者の6名で運営しています。

就労のために施設を利用する人45人と、生活介護事業の利用者17人が通所しており、そのうち約3割が知的と精神に障がいを併せもっています。

平成7年に丸子町が町社会福祉協議会に委託し「丸子町共同作業所とんぼハウス」として開所。その後、上田市への合併を前に、平成16年に社会福祉法人として「まるこ福祉会」独立。丸子町社協から1500万円の助成を受け設立した、大変珍しい社会福祉法人です。

その立役者が理事長の柳澤正敏さん(64)です。丸子町の職員として福祉分野を担当し、社協事務局長の時に社会福祉法人まるこ福祉会を設立。その4年後に早期退職して以来、理事長を勤めています。「合併を前にして地域の障がい者福祉を考えると、社会福祉法人として自立することが最良と考えた。前代未聞の試みに、機の引き出しには辞表を用意して知事の認可を待った」とその当時の苦勞を語ってくれました。

丸子町社協から生まれた社会福祉法人

強く正しいのびのびとした利用者の姿が印象的。

本部のある「きらり」では、たくさんの利用者がスタッフやボランティアと一緒に作業を行っています。自由型の就労施設で、一日しっかりと働く人もいれば、のんびりと過ごす人もいます。衛星力ラオケもあって、お昼休みにはみんなで楽しめるようになっていきました。

「この施設のルールは人に迷惑をかけないこと。それ以外は自由。強く正しいのびのびと、がモットー」と明るく理事長は言います。「こんにちが。元気が。よくやってくるな」など、明るくみんなに声をかけ、時にはパチンと手のひらを合わせハイタッチも。笑い声が絶えない職場です。施設の奥にはジビエ商品の開発・加工のための厨房もあります。今後はパン工房も移転し今度より、広く使いやすい工房でのびのびと働ける環境づくりを進めています。

菓子箱の組立など、企業からの作業だけでなく、自ら商品開発を行っています。パン工房で作るパンはスーパールヤなどでの販売をはじめ、依頼があればイベントにも出店します。独自の木工製品の開発や、手芸品、最近では水田を借りて無農薬・無消毒栽培による米作りも行っています。また安全な有機JAS規格に適合した「ほかししたい肥」も製造・販売しています。室内だけの作業にとどまらず、田んぼなどの屋外作業に利用参加も参加します。また、霊泉寺温泉では、2千本のどんぐりを植樹し、毎年イベントを行っています。今年8月には福島県から60人の親子を招き、川遊びや温泉、石釜によるピザパーティーなど共に楽しみました。信州国際音楽村の水仙祭りやラベンダー祭りなど地域のイベントにも利用者が積極的に参加しています。